

答 申 書

平成19年8月9日

宇都宮市河内自治会議

はじめに

平成19年3月31日、河内町は、宇都宮市と合併し、旧河内町の地域は、新しい宇都宮市の一地域として生まれかわりました。

それまでは、人口3万5千人の一つの自治体としてまちづくりをしてきましたが、合併によって50万人の大都市の一部となり、旧河内町の住民には、地域の声が行政に届きにくくなってしまうのではないかと懸念がありました。

そのため、「地域自治制度」という新しい市民協働の仕組みが取り入れられ、地域に根ざした行政を進める拠点となる「地域自治センター」と、地域の意見を行政に届ける役割を担う「地域自治会議」が設置されたところです。

行政のパートナーとして、私たち自治会議に求められている役割は、地域の実情を一番よく知っている私たちが知恵を出し合って、地域の課題に対する意見や提案をしていくことであると思います。

今回、合併市町村基本計画についての諮問を受け、地域住民の目線で気づいた意見を出し合い、この答申を取りまとめましたが、このような取り組みを通して、今後、地域において住民と行政が共にまちづくりをしていくという河内モデルの地域自治を発展させ、それが、これからの宇都宮市全体を先導していくものとなるよう期待しています。

1 総括意見

河内地域は、緑豊かな丘陵地帯と平地林、それらを源とする谷川の湧水など自然豊かな地域であり、また、鬼怒川、西鬼怒川、山田川が潤す実り豊かな水田や畑による農業地域、そして、地域の立地特性から宅地開発が進んできた住宅地域という、自然と住環境のバランスが取れたまちとして発展してきました。

その地域の特性から、河内地域は、今後も宇都宮市における優良な居住区域としての役割を担うであろうと思います。そのためには、豊かな水と緑の保全に配慮しながら、快適な生活環境を確保するため、生活道路や公共下水道などの生活基盤の整備を進めるとともに、住民同士が交流をより一層深めるための取り組みが必要です。

合併市町村基本計画には、河内地域の目標像を「水と緑に囲まれ、やさしい居住空間にあふれる住みやすい地域」とし、「豊かな自然環境と質の高い居住環境が調和した、暮らしやすく、触れ合い交流に満ちた地域となるよう、都市・生活基盤が整った住宅市街地の創出をさらに進めるとともに、スポーツ・レクリエーションなど高い公共機能を有する施設整備を推進します」という地域づくりの基本方針を定め、12の主要施策・事業が挙げられています。

これらの主要施策・事業のうち、いくつかの事業は、すでに着手されていますが、未着手の事業についても地域住民の期待が高いことから、早期に事業展開が図られるよう強く希望します。

そのためには、主要施策・事業に係る本市の各種の行政計画について、合併協議時における事務事業の調整等を踏まえ、速やかに当該事業を盛り込んだ内容に変更するとともに、未計画の事業については、早急に計画を策定し、また、必要に応じて、当該事業を本年度の実施計画に計上することを希望します。

また、主要事業を実施するには相当の財源が必要となりますので、これらを実施するにあたっては、既存施設の運営費の見直しや建築、修繕される施設の省エネルギー対策を進めることなどにより、経費削減にも取り組むべきであると考えます。

2 「一体的で均衡がとれた誰もが住みよい都市の創造」について

主要施策・事業：

◆道路新設改良事業， ◆公共下水道整備事業

<道路整備について>

河内地域は、多くの住宅団地が造成されたことにより人口が増加し、宇都宮のベッドタウンとして発展してきた住宅地域です。しかしながら、急激な都市化による人口の増加に伴い交通量が増加し、未整備な狭隘道路もあることによって、交通事故の危険性が懸念されています。

当地域には市街地から放射状に伸びる主要幹線道路が南北に縦貫し、中心部へのアクセス条件は比較的良好ですが、これらを横に結ぶ東西の路線機能が脆弱で、朝夕の通勤時の交通渋滞が激しくなっています。

当地域では、路線バス等の公共交通機関が少ないことから、自動車以外では、歩きや自転車で移動している状況であり、子どもたちが自転車で通学している姿が多く見られます。しかし、道路に歩道や自転車通行帯が整備されていない路線が多いことから、地域住民が安心して暮らすためには、快適で安全に通勤・通学できる道路、安心して歩くことができる歩道の整備が急務であると考えますので、これらの生活道路や自転車通行帯、歩道の整備を強く希望します。

また、地域内には、自然豊かな景観や文化財などの地域資源が点在しており、これらを有効に活用していくためにも、地域資源を結ぶ遊歩道やサイクリングコースなどの歩行者や自転車のための道路ネットワークの整備も希望します。

<下水道整備について>

地域住民が日常生活をしていく上で重要なもののひとつとして下水道が挙げられます。公共下水道の整備率は、旧宇都宮市域が94.2%であるのに対して、河内地域は54.6%と大きく遅れています。

快適な生活環境の確保と地域の特色であるきれいな水と緑を保全するため、農業集落排水事業や合併処理浄化槽設置に加え、公共下水道の整備を早急に進めることを希望します。

○ 優先的な取り組み

- ・ 通勤通学の安全を確保した道路整備
- ・ 地域資源を活用した道路ネットワークの整備
- ・ 下水道を含めた生活環境の整備

3 「個性と特性を生かした地域の創造」について

主要施策・事業：

◆総合運動公園整備事業、◆小中学校校舎整備事業、◆小中学校体育館整備事業、◆小中学校プール整備事業、◆地域自治拠点整備事業、◆中央公民館(河内生涯学習センター)改修整備事業

<スポーツのまちづくりについて>

旧河内町のときからスポーツの町としてスポーツを通じた地域住民相互の交流を深め、施設面の整備を充実させてきたことから、河内地域は、スポーツ活動が活発であるという特徴があります。このため、今後ともスポーツ・レクリエーションの活動環境の充実を図る必要があります。

河内総合運動公園は、屋内プールや陸上競技場が整備されておりますが、市民がもっと気軽にスポーツに親しむことができるような環境をつくるため、多目的広場やトレーニングセンターなどの整備を進めることを希望します。

また、既存の施設の中には市民に十分に利用されているとは言えないものも見られることから、それらの施設を有効に活用したソフト事業の強化と全市民へのPRが必要であると考えます。特に、市民の利用を促進していくためには、社会人等が夜間でも利用できるような施設整備が必要であると考えます。

<小中学校について>

河内地域は、市内でも住民の平均年齢が若い地域で、年少人口の割合が15.3%と高く、老年人口の割合が14.9%と低くなっています。全国的に少子化が進むなかでも、当地域では合計特殊出生率が増加傾向にあるなど、多くの子どもたちが生まれ育っている地域であると言えます。

地域づくりを進めていくためには、地域の将来を担う人材を育成していくことが重要です。そして、人材育成の第一歩は、学校教育にあることから、小中学校の児童生徒の学習環境を整備する必要があります。

地域内の小中学校の中には、昭和56年の新耐震基準施行以前に建築された校舎が5校、体育館が2校あるほか、プールも6校が老朽化しています。校舎や体育館については、耐震工事を順次実施する計画があると聞いていますが、学校は、非常時の避難所にもなることから、計画を前倒しして早急に着手していただくよう希望します。

また、古い校舎では設備の老朽化が進み、例えばトイレの臭いが教室に流れ込んでしまうなど、子どもたちが一日の大半を過ごす学校の生活環境が快適とは言

えない状況があります。さらに、昇降口が開放型で誰でも自由に出入りできる状況であったり、プールが老朽化して危険な箇所があるなど、施設の安全面でも問題が見られます。学校の耐震工事の際には、学校のニーズをよく捉え、子どもたちにとって、安全で安心かつ快適な学習環境を提供できるよう、施設の大規模な改修も併せて実施するよう希望します。

<公共施設について>

地域自治センターは、地域自治の拠点と位置づけられていますが、昭和56年の新耐震基準施行以前に建築されたものであって、大地震等の非常時には地域防災拠点として使用できなくなる恐れがあります。また、エレベーターが無いことから、バリアフリーへの対応が必要であるとともに、環境配慮や省エネルギーにも対応すべきであり、地区市民センター等の他の地域行政拠点との機能面での整合性を図りながら建て替えを進めるべきであると考えます。

また、地域づくりは人材の育成が重要であり、河内地域では、文化振興活動や自主研修などの活動が盛んであることから、地域の活動拠点として、生涯学習センターの改修整備についても併せて進めるべきであると考えます。

○ 優先的な取り組み

- ・ 総合運動公園の早期完成
- ・ 小中学校における衛生面や安全面を考慮した施設整備
- ・ 地域自治センター整備の早期着手

4 「人・モノ・情報が活発に交流する活力の創造」について

主要施策・事業：

◆岡本駅西土地区画整理事業、◆岡本駅前周辺整備事業、◆農村公園等整備事業、◆農道整備事業

<岡本駅周辺の整備について>

住宅地域の中心となる岡本駅周辺は、河内地域の表玄関であるとともに、宇都宮市の北口とも言える場所であり、北方面から来る人にとっては、宇都宮市の第一印象となる重要な都市景観となります。駅は、まちの顔であり、駅周辺がきれいでない、まち全体のイメージが良くならないので、岡本駅周辺の都市機能を整備することは宇都宮市全体にとっても重要なことであります。

特に、岡本駅西地区の既存の市街地は、住宅が密集し、道路の幅も狭いことから、緊急時などにおける不安が増しているうえ、西側には駅入口が無く大変不便をきたしています。

このような状況を改善するために土地区画整理事業が着手されましたが、事業開始から13年が経過しているにもかかわらず、施工されている区域が全体の約1割に過ぎず、事業が大幅に遅れていると感じられます。今後は、駅前区画の整備と幹線道路の整備を合わせて進め、特に駅西広場や線路ぎわの整備を優先させ、区画整理事業の早期完成に努めていただくよう希望します。

また、住みよい環境づくりを進めるためには、区画整理事業と併せ、駅東西のいずれからも乗降できるよう、橋上駅化も含めた駅周辺の再整備を進めていただくよう希望します。

<地域間交流について>

河内地域のもうひとつの顔である農村地域の特色を生かし、癒しや憩いの場として人を呼び込み、住宅地域と農村地域の両地域の住民の交流や市内の他地域の住民との交流の場を作ることによって、地域の活性化を図ることが必要です。

そのため、農産物直売所や交流館など、地元の農家や住民が協力した活動を進めることができる場の整備を希望します。

○ 優先的な取り組み

- ・ 岡本駅周辺の優先的な整備
- ・ 農村公園の整備による交流の場の確保

～～ 審議の経緯 ～～

平成１９年５月３０日

第２回宇都宮市河内自治会議

- ・ 市長から「合併市町村基本計画の執行状況について」諮問
- ・ 合併市町村基本計画の執行状況について調査審議

平成１９年６月１５日

地域内視察

- ・ 田原中学校，田原小学校，下田原南部地区圃場整備地，岡本駅西土地地区画整理事業地内，河内水再生センター，桜づつみ，谷川，総合運動公園

平成１９年６月１９日

第３回宇都宮市河内自治会議

- ・ 合併市町村基本計画の執行状況について調査審議

平成１９年７月 ６日

第４回宇都宮市河内自治会議

- ・ 合併市町村基本計画の執行状況について（答申案について）

～～ 河内自治会議委員 ～～

会 長	中 村 祐 司
副会長	須 藤 貢 子
委 員	青 木 正 子
委 員	上 山 茂
委 員	太 田 照 男
委 員	大田原 加久司
委 員	菊 地 久美子
委 員	小 嶋 由美子
委 員	須 藤 誠 一
委 員	五月女 勝 正
委 員	五月女 純
委 員	對 馬 博 幸
委 員	手 塚 米 子
委 員	永 見 幹 夫
委 員	西 岡 隆 義
委 員	日 向 卜 工
委 員	前 野 巖
委 員	松 谷 悦 広
委 員	森 本 喜 美子
委 員	山 下 景 二